

高齢者の服装色に関するイメージ評価

○庄山茂子* 梶原 裕**

(*県立長崎シーボルト大, **九州芸術工科大)

【目的】我が国では、人口の高齢化が進み21世紀の高齢社会にむけて、高齢者が心身ともに健全で自立した生活を送るための生活支援が求められている。本研究は、高齢者の服装における色彩に着目するものである。服装における色の演出は、着装者の生理的、心理的、社会的意味を含んでいる。本研究ではCGを使い高齢者の服装色を75色作成した。これを高齢者自身と若い世代の女子学生がどのように評価するか、比較検討することで高齢者が真に豊かな衣生活を送るための服装色を探ることを目的とした。

【方法】(1)試料：服装色の異なる75枚の高齢者の服装写真 (2)調査場所：福岡県 (3)調査対象者：60歳以上の高齢者女子103名、18～19歳の短大生女子100名 (4)調査時期：平成10年6月～7月 (5)調査方法：質問紙法による面接調査 (6)調査内容：1)40色相配列検査、2)75色の総合評価 3)高齢者に理想の服装色、高齢者の現実の服装色、着たくない(着てほしくない)色の選択、それぞれ1位の色について20対の形容詞を用いSD法による5段階尺度でイメージ評価 (7)分析方法：単純集計、因子分析、一元配置の分散分析。

【結果】①高齢者の色彩弁別能力は女子学生より劣った。②75色の総合評価では、高齢者と女子学生の評価平均に有意差が認められる色が多く、高齢者の評価は女子学生より高かった。③高齢者に理想の服装色では、色の選択はグループ間で異なったがイメージに「はなやかさ」などの共通性がみられた。④高齢者の現実の服装色では、色の選択とイメージにグループ間の差異がみられた。⑤着たくない(着てほしくない)色では、グループ間に共通性がみられ、「平凡」と「派手」の両極端なイメージがあげられた。